

進路だより



いちがんとなって
目標の進路達成

令和6年3月中学校及び特別支援学校中学部

卒業予定者の進路希望状況を発表！

令和6年3月に府内国・公・私立中学校、義務教育学校及び特別支援学校中学部を卒業する予定の生徒の京都府公立高等学校への進路志望状況が、京都府教育委員会から発表されました。3年生のみなさんには、調査の結果をまとめた資料を配布します。1・2年生は京都市教育委員会のHPや明日の京都新聞で確認してみましょう。この調査は、先日みなさんが提出した第4回進路希望調査を京都府全体で集約したものです。とても、大事な資料ですので、しっかりと読んで、志望校決定の参考にしてください。この調査の志願者数とは、各学科等を第1志望とする生徒（前期選抜・中期選抜を問わない。）のことを指します。

ところで、倍率の意味を理解できているでしょうか？資料を見ていると、前期選抜の倍率が7倍を超えている学校もあります。100人の定員のところに、志願者が100人なら1.0倍、110人なら1.1倍、200人なら2.0倍、これが倍率です。中には、定員に満たない（1倍未満）選抜方式の学校もありますが、だからといって全員が合格というわけではありません。それが選抜を実施する理由なのです。また、これから希望を変更する人もいるだろうし、現在は私立高校を第1希望としているけれど、残念ながら不合格の場合には公立高校を希望する人もいるでしょう。そして、前期選抜で定員の100%の専門学科を受検したけれど、不合格だったので、中期選抜では普通科を受検する人や第2順位で希望している人がいることも考えておかなければいけません。そしてなにより、どれだけの実力や報告書の成績がある生徒が希望しているかまでは、この資料からは読み取れません。

資料の倍率を見て、「自分が希望する学校は希望者が多いし、心配だなあ…」「希望者が少ないし、この学校に変更しようかなあ…」と気持ちが揺れ動く人がいるかもしれませんが、この資料は府内全域の中学生が見ている資料ですので、同じような事を考える人もいるだろうし、心配になるなら倍率を考えずに勉強に向かう方がいいかもしれません。

11月の進路希望は、前回の三者懇談で保護者の方、担任の先生と相談して決めた希望先です。今回の情報だけをもとに、一時の感情だけで進路先を変更することはやめておきましょう。せっかくこれまでに考えを練ってきたので。倍率は変わっても定員数は同じ、自分の選択に自信をもって、合格におけて努力を積み重ねていくことが大切です。

※保護者の方にも必ずこの資料は見せてください！

